

(広報資料)

平成29年9月14日
京都市文化市民局
(担当 美術館 Tel771-4107)

正月こそ、日本文化の**真髄**を感じませんか。

京都市美術館所蔵品展 描かれた“きもの美人” の開催について



上村松園「人生の花」は、彼女自身が「終生忘れ得られぬ一作」と述べた作品。
その理由とは…？(答えは裏面)

平成31年度内の開館に向けて改修中の京都市美術館では、閉館中も所蔵品の魅力に触れられる企画として、来年1月、美術館「えき」KYOTOにおいて、「京都市美術館所蔵品展」を開催しますので、お知らせします。3回シリーズの第1回目のテーマは、きもの美人。新春にふさわしい、艶やかなきもの姿の女性を描いた日本画等、約40点を展覧します。

1 日時

平成30年1月2日（火）～1月21日（日） ※会期中無休
午前10時～午後8時 ※百貨店営業時間に準じる，入館は閉館30分前まで

2 会場

美術館「えき」KYOTO（ジェイアール京都伊勢丹7階隣接）

3 入場料

一般900（700）円，大高生700（500）円，中小生500（300）円

※（ ）内は前売り料金

※前売券は12月4日（月）～1月1日（月・祝）

※美術館「えき」KYOTO窓口，ローソンチケット，チケットぴあ，京都新聞文化センターほか各プレイガイドで販売

4 主な出品作品



鹿子木孟郎「新夫人」



菊池契月「散策」

5 主催

京都市，美術館「えき」KYOTO，京都新聞

6 問合せ先

株式会社京都新聞 COM 事業局 Tel：075-255-9758

学芸員 後藤結美子



表面の答え

松園の青春の夢を託した作品

「人生の花」は，華やかな婚礼の式場へ臨もうとする花嫁の不安な顔と，付き添う母親の緊張の瞬間を描いた作品。知人の嫁入り手伝いをした際に，深い感慨を覚えた松園が，青春の夢を託して渾身の力で描き出しており，当時の京都に残っていた花嫁風俗に，思いを馳せることができます。

この作品には複数のバリエーションがあり，うち1点が明治33年の日本美術院展覧会において，当時の大家にまじって銀牌を受賞。松園のその後の地位を不動にしたことから，「終生忘れ得られぬ作品」となりました。

【参考】市美術館の再整備について

京都市では，創設以来80年以上の長きにわたり，我が国の文化芸術を牽引してきた京都市美術館を，将来にわたり，市民に愛され世界に誇れる美術館としていくため，再整備に向けた取組を推進中。平成31年度内のリニューアルオープンを目指します。



再整備後に常設展が誕生（イメージ）

京都市美術館の日本画の所蔵数は，日本トップクラス！再整備後は，竹内栖鳳などの京都画壇の作品をはじめとする，優れたコレクションをいつでも楽しめる常設展を新設。和装や四季など，先人たちが大切にしてきた日本の「心」を感じる機会を創出します。